

まえがき

本書は、拙著『まわりの先生から「あれっ、授業うまくなったね」と言われる本。』の続編にあたるものです。

前著はおかげさまで、多くの方に手にしていただくことができました。それだけ、「授業がうまくなりたい」「より良い授業をしたい」という先生方が多かったのだと思います。

やはり教師になったからには、授業で勝負ができるようになりたい。授業で子供を伸ばし、変えていきたい。それが私の本音であり実感です。そして多くの先生方もまた、そう感じているのではないでしょうか。

その証拠に、前著を読んだ先生方からは、「もっと授業の腕を上げるコツはないのか」という声が届くようになりました。

学級経営につながる授業のコツや、ベーシックなポイントはつかめたが、上級編、さらなるスキルアップ編とも呼べる他の技術やコツが知りたいと言うのです。

そんな折、新しい学習指導要領が公布されることとなりました。それに先だって、「子供が受け身の授業ではいけない」「これからは一斉指導をやめて、子供をもっと主体的・協働的にさせなければならない」という意見が活発に交わされるようになりました（いわゆる「アクティブ・ラーニング」というものです）。

この風潮に私は危機感を覚えました。

私が教師になった頃、

「これからは支援の時代だ。指導してはいけない」ということが言われ始めました。学習指導案の「指導と評価」とい

う部分は、「支援と評価」と表記を改めるように指示されました。教師が教える授業が否定され、支援にまわるべきだと指導されたのです。

このように新しい考え方が導入されると、多くの場合、意見が二つに分かれます。

新しい考えを進んで取り入れていこうとする考え方と、伝統的なもののほうが良いという考え方です。「不易」（変わらないこと）と「流行」（変わること）というものです。

「流行」派は、「これからは支援の時代だから教師は指導してはいけない」「これからは子供たちをアクティブ・ラーナーにするために、子供同士の協働的な授業を中心にならなければならない」といった主張をします。今までの方法を否定します。

「不易」派は、「どんなに時代が変わろうとも教えるべきことを教えればよいのだ」「安易に流行にのるのは危険だ」と主張します。新しい方法を受け入れようとしません。

しかし、私はこのように二項対立で考えることは間違っていると思います。

実は「不易流行」は松尾芭蕉の主張した考え方で、

不易を知らざれば基立ちがたく、流行を知らざれば風新たならず
と『去来抄』に書かれています。

「普遍的な変わらぬことを学ばなければ、基礎が身につかない。しかし、時代にそった新しいものを求めなければ、進歩がない」といった意味です。つまり不易と流行は、根本ではつながり合っているのです。芭蕉が言ったのは俳句についてですが、教育にもまた同じことが言えると私は思っています。

本書はこのような考え方のもと、子供をよりよく変化させるための指導法や教師の発する言葉をどのように磨くかという、どちらかといえば「不易」にあたる部分。そして「主体的・対話的で深い学び」「思考力」といった「流行」にあたる部分。この両面から構成して

います。

流行は流行している時にしか学べません。一方で、基礎がないままに流行ばかり追い求めては、安定した授業ができません。

バランス良く、様々な指導を行うことができるようになることが大切です。特定の指導法に固執していては、価値観が多様化する時代に対応することはできないでしょう。

もちろん今回も、すべての実践を地元の若い先生方にも行っていただきました。その上で、実践するには無理があるというものは削り、物足りないものは再度練り直すなどして調整しました。また、どのクラスでも十分に実践可能な内容に絞り掲載しています。

効果は実証済みですが、もちろん同じ教室、同じ子供ではありません。ご自分の力量や子供の実態に合わせて、柔軟にやり方を変化させていくことが大切です。完璧な方法はどこにもなく、不断の見直しそが授業の腕を上げることにつながります。

本書の実践をベースに、各教室で、先生方が自分なりのオリジナルの授業術を構築していくってくれば、筆者としてそれ以上の喜びはありません。

2017年

瀧澤 真

もくじ◎まわりの先生から「むむっ！ 授業の腕、プロ級になったね」と言われる本。

まえがき 3

授業術チェックリスト——まずは今の自分の状態を知ろう！ 10

Lesson 1

子供がみるみる変わる！
ワンランク上の授業術 15

実践者の声

様々なことに目が向くようになりました！

(男性教諭／教師歴7年目) 16

1 学習が苦手な子への対応術 18

2 学習が得意な子をさらに伸ばす 20

3 メリハリをつけた授業を行う 22

4 学力の向上を常にチェックする 24

5 スモールステップを使いこなす 26

6 1年間のゴールをイメージする 28

7 勉強術を教える 30

8 子供に理想の授業を見せる 32

COLUMN-1 ◎一人前になるには10年！ 34

Lesson 2

授業スキルアップの要! 発問・説明・指示の使いこなしテクニック

実践者の声

1年生にもよくわかる授業ができるように なってきました! (女性教諭／教師歴5年目)	36
1 発問・説明・指示を効果的にする教師の話し方	38
2 発問を使い分ける	40
3 発問を使いこなす	42
4 説明力を鍛える	44
5 説明を見える化する	46
6 わかりやすい説明の技術	48
7 指示を効果的にする技術	50
8 発問・説明・指示を組み合わせる	52
COLUMN-II ○研究授業はだれのために?	54

Lesson 3

子供がどんどん食いついてくる! 教科別授業づくり成功のコツ

実践者の声

いろいろな教科に目が向くようになりました! (男性教諭／教師歴6年目)	56
1 国語科授業成功のコツ その1 国語は3つのユニットで進める	58

2	国語科授業成功のコツ その2	言語活動型授業づくりのポイント	60
3	算数科授業成功のコツ その1	系統性を意識する	62
4	算数科授業成功のコツ その2	生活との結びつきを考える	64
5	社会科授業成功のコツ その1	資料活用が授業の要	66
6	社会科授業成功のコツ その2	ネタを集める	68
7	理科授業成功のコツ その1	予想を重視する	70
8	理科授業成功のコツ その2	知識を日常生活と結びつける	72
COLUMN- III ◎柔軟に教えよう！			74

Lesson 4

子供がみるみる目を輝かせる! 「主体的・対話的で深い学び」 を目指す授業展開術 75

実践者の声

「主体的・対話的で深い学び」への不安がなくなりました！
(女性教諭／教師歴12年目) 76

1	「主体的・対話的で深い学び」とは何か	78
2	主体的な学びをつくる	80
3	対話的な学びをつくる	82
4	ペア対話を極める	84
5	深い学びをつくる	86
6	ティーチャーからファシリテーターへ	88
7	表現をゴールにおいてみる	90
8	助け合える学級をつくる	92

COLUMN-IV ◎真の国際人とは 94

Lesson 5

「主体的・対話的で深い学び」に生かす! 思考力養成&協働学習のポイント 95

実践者の声

子供たちが主体的に学ぶようになりました!

(女性教諭／教師歴5年目) 96

1 「なぜ、そうなるのか?」を説明させる【理由・根拠】 98

2 同じところと違うところを比べさせる【比較】 100

3 仲間分けをさせる【分類】 102

4 どこを先にするか考えさせる【順序】 104

5 3人組で話し合う【小実験室】 106

6 自由に発想させる【ブレイン・ライティング】 108

7 互いに助け合う【ジグソー】 110

8 自由な雰囲気のなかで意見を交流する【ワールドカフェ】 112

COLUMN-V ◎早く学校に行きたい! 114

Q & A

実践者の疑問に答えます!

..... 115

あとがき 126

メリハリをつけた授業を行う

一本調子な授業は
退屈なもの



● 静と動、緩急のメリハリが大切

映画では、クライマックスの前に、あえて少し間延びしたような場面をつくると言います。お笑い番組でも、大笑いの前にちょっと退屈するような話をもってくるという話を聞いたこともあります。

ずっとハラハラしたり、笑い続けたりするのは疲れます。また、退屈したあとだからこそ、余計に大笑いできることもあります。

授業ではどうでしょうか。

45分間、ずっと緊張状態が続く、集中が求められる授業になつてはいないでしょうか。テンポ良く、リズム良く授業をするのがいいからといって、一本調子の授業をしていないでしょうか。

ぜひ、45分のなかに「静」と「動」、緩急を織り交ぜていきましょう。

● メリハリのつけ方

・「教師が説明する場」と「子供が活動する場」を交互に設定する

教師の説明が中心となる授業の場合、教師が「動」で子供は「静」となります。子供の活動が中心なら、子供が「動」で教師は「静」となります。どちらかばかりに偏らずに、「静」と「動」が交互にくるような授業が基本です。

・雑談を入れる

途中、ダレてきたなと思ったら、雑談を入れるようにします。もちろん雑談と言っても、その日の学習と何らかの関係があるとより効果的です。例えば、社会科で古墳時代を学んでいるなら、大山古墳に行った時の話をするとか、国語科で「ごんぎつね」に取り組んでいる時なら新美南吉の他の作品を紹介するなど、テーマにそった小話がよいでしょう。

・「話す」「聞く」「読む」「書く」を織り交ぜる

教師の指導と児童の活動のバランスとともに、読み書きなどのバランスも考えていくと、より一層メリハリがついてきます。

・退屈そうでもあえて放置する

子供の様子を見ていて、退屈してきたなという場面があります。例えば、アイディアが出尽くしてしまった時、話し合いが堂々巡りになった時、あまり興味のない話を聞いている時などです。授業効率で言えばそうした時間はカットしたほうが良いでしょう。しかし、アイディアが出尽くした時から本当の思考が始まったり、興味がない話のなかにかすかに気を引く言葉が出てきたりするものです。何となくぼーっと話を聞いていたり、考えごとをしたりしている時に、ひらめくこともあります。そういう時間を大切にし、後半に一気にテンポを速め、まとめていくことでメリハリがつきます。

ワンポイント★アドバイス

45分間ずっと文章を書いているような授業もあります。そうした場合は、何時間かの単元のなかでのバランスを考えていくとよいでしょう。1時間目で教師の説明が多くなったら、2時間目は子供の活動が多くなるように意識するのです。

